**全国国際教育研究協議会**

Japan Association For International Education

略称「国際教」「国際研」「JAFIE」「ジャフィー」

**２０１９年度全国総会資料**

**＜2019年5月30日　修正版＞**

日時　２０１９年５月２３日（木）　14:30 ～16:30

会場　国際協力機構（JICA）地球ひろば

〒162-8433　東京都新宿区市谷本村町10-5

TEL：03-3269-2911　FAX：03-3269-5044

＜＜　事務局連絡先　＞＞

東京都立永山高等学校

全国国際教育研究協議会　事務局長　高島　みゆき

〒206-0025　東京都多摩市永山5-22

TEL 042-374-9891　FAX 042-371-5615

e-mail　　zinfo@jafie.jp

**総会次第**

Ⅰ　開会のことば

Ⅱ　会長挨拶　　　　　　　　　　　　　　　　 　 　会長　　早川　信一（東京都立科学技術高等学校長）

Ⅲ　来賓ご紹介及びご挨拶

Ⅳ　議長選出

Ⅴ　議事

１　２０１８年度事業報告 　　　　　　　　　　　　　　事務局長　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　　２

２　２０１８年度会計決算及び監査報告　　　　　　会計・監事 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　　７

３　２０１９年度役員の選出

　　　　　役員の推薦　承認 　　　　　　　　　　　　　　　 新会長・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　　８

　　　　　新役員代表あいさつ 　　　　　　　　　　　　　　新会長

４　２０１９年度事業計画　　　　　　　　　　　 　 　　新事務局・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　10

　　（事務連絡を含む）

５　２０１９年度会計予算　　　 　　　　　　　　　　　新会計・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　14

　　　６　第５６回全国国際教育研究大会奈良大会　　 奈良県・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　 15

Ⅵ　関係諸機関から

１　JICAエッセイコンテストについて

２　NPO法人　全国国際教育協会

Ⅶ　各都道府県県事務局　意見交流

Ⅷ　閉会のことば

★総会終了後、16:40～　国際教育懇親会を2階Jｓ　Cafeで予定しております。是非、ご出席ください。

参加費は別途徴収します。

**議　事　資　料**

**Ⅴ　議事**

**１　２０１８年度事業報告**

**１－１１第55回全国国際教育研究大会　東京大会**

**「東京2020オリンピック・パラリンピック大会開催を控えた多文化共生社会の在り方を求めて」**

１　大会趣旨

国際的な相互依存関係が深化し拡大する中で、国際社会が直面する様々な課題を解決することが求められています。その課題を解決する主体者には国や組織といった単位だけではなく、一人一人が地球市民としてその解決に取り組むグローバルな視野が必要です。このグローバルな視野をより一層育むためには、まず自分が住んでいる郷土の魅力を知ることに努め、地域の課題に関心をもつことが大切です。それらを地球規模の問題として捉え直すことで、国際社会の中で自分は何ができるかを考えることができます。また、身近なところに潜む人権問題や環境問題などに関心をもつことは、空間的にも文化的にも隔たりのある海外の課題を理解し、解決しようとする意欲へとつながります。

日本の首都東京には、多くの在日外国人が居住しています。そのため、日常的に異文化との交流やグローバルな視野で多文化共生社会の諸課題を捉えることが比較的容易な環境にあります。その東京で、２年後の２０２０ 年には、オリンピック・パラリンピック大会が開催されます。また、国連が提唱する「持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）」を受けて、オリンピック・パラリンピック実施後のレガシーの在り方についても大いに関心をもち、積極的に当事者として関わろうとする態度や姿勢が求められます。

以上の理由から、次世代を担う高校生とともに、これらの課題を考える機会として、本大会のテーマを設定しました。

２　主催　　　全国国際教育研究協議会

３　共催　　　関東甲信越静地区高等学校国際教育研究協議会　東京都国際教育研究協議会

独立行政法人国際協力機構（JICA）　東京都教育委員会　NPO法人全国国際教育協会

４　主管　　　東京都国際教育研究協議会

５　後援・協賛

　　外務省　文部科学省　一般財団法人日本国際協力センター　独立行政法人国際交流基金・

神奈川県教育委員会　千葉県教育委員会　埼玉県教育委員会　茨城県教育委員会

栃木県教育委員会　群馬県教育委員会　長野県教育委員会　山梨県教育委員会

公益社団法人青年海外協力協会

６　日時　　平成３０年８月７日（火）　９：３０～１７：３０

８月８日（水）　９：００～１２：４０

７　会場　　国際協力機構（JICA）地球ひろば

〒162-8433　　東京都新宿区市谷本村町10-5（JICA市ヶ谷ビル内）

８　大会日程

第１日目 平成３０年８月７日（火）

９：３０～１０：００

開会行事（２階　国際会議場）　司会：多摩大学附属聖ヶ丘高等学校　ESS部

主催者挨拶 大会会長 大泉　昌明（東京都立五日市高等学校長）

 　全国国際教育研究協議会会長　 早川　信一（東京都立多摩工業高等学校長）

共催者挨拶　　　独立行政法人　国際協力機構広報室長兼JICA地球ひろば所長 天田　聖　様

東京都教育庁指導部指導推進担当部長 　　　　　　　 藤井　大輔　様

来賓挨拶　　　 外務省　国際協力局審議官 桑原　進　　様

 　 文部科学省　初等中等教育局 国際教育課外国語教育推進室　教科調査官

国立教育政策研究所　教育課程研究センター研究開発部　教育課程調査官 下山田　芳子　様

１０：１５～１２：３０ 司会：多摩大学附属聖ヶ丘高等学校　ESS部

第３８回高校生英語弁論大会（英語弁論９名）

 　外務大臣賞　　　　　　　　　　　八戸聖ウルスラ学院高等学校　　　小向　愛莉

 　 文部科学大臣賞　　　　　　　　　東京都立本所高等学校　　　　　　井上　奈欧美

　　国際協力機構理事長賞　　　　　　佐野日本大学中等教育学校　　　　渡邉　カラナアッタナヤカ

　　国際交流基金理事長賞　　　　　　東京都立両国高等学校　　　　　　樋本 耀

　　日本国際協力センター理事長賞　　長崎県立佐世保北高等学校　　　　冨田　里奈

　　全国国際教育研究協議会会長賞　　愛知県立旭丘高等学校　　　　　　小川 正陽

 全国国際教育研究協議会会長賞 愛媛県立松山中央高等学校 中西　杏

全国国際教育研究協議会会長賞 松徳学院高等学校 山下　愛里彩

全国国際教育研究協議会会長賞 奈良県立青翔高等学校 小林　那由心

第１８回高校生日本語弁論大会（日本語弁論６名）

　 外務大臣賞 　　　　　　　　 千葉県柏市立柏高等学校　　　 于名月（ユ ミンユエ）

 文部科学大臣賞 富山国際大学付属高等学校 イシャ ラハット

国際協力機構理事長賞　　　　　 山梨英和高等学校　　　　 チェ・ミナ

国際交流基金理事長賞　　　　　 徳島県立池田高等学校三好校　　　 カン・アリザ

日本国際協力センター理事長賞　 関東国際高等学校　　　 　 唐　佳雯(タン　チャウン）

全国国際教育研究協議会会長賞 関東国際高等学校 ツォゴネメフ　ホラン

１３：３０～１４：３０ 司会：多摩大学附属聖ヶ丘高等学校　ESS部

講演（東京都教育委員会）

「東京2020オリンピック・パラリンピック大会開催を控えた多文化共生社会の在り方に関する講演」

東京都教育庁指導部　オリンピック・パラリンピック教育推進担当課長 河野　浩二

オリンピック・パラリンピックと教育の共通する理念を確認し、東京2020大会を子供たちの人生にとってまたとない重要な機会と捉え、東京都で推進しているオリンピック・パラリンピック教育の取り組みが映像などとともに紹介

１４：４０～１６：２０

第７回国際理解・国際協力に関する高校生研究発表会 司会：東京都立竹早高等学校

国際協力機構地球ひろば所長賞　　徳島県立徳島商業高等学校　ビジネス研究部　校内模擬会社ComCom「DREAMS COME TRUE ～みんなの想いと共に～」

国際交流基金賞　　岩手中学校・高等学校　国際交流部

　 「地方都市のインバウンド対策の現状」と「多文化共生の今後のあり方」について

（研究→取材／調査→発見→発信活動の報告とその成果）

　　　日本国際協力センター賞　　宮崎学園中学校・高等学校　インターアクト部

「アフリカ・マラウイの保健衛生概念・状況の向上」

全国国際教育研究協議会会長賞　　東京都立多摩工業高等学校　JRC部

　 「海外に子ども用車椅子を」

国際理解・国際協力奨励賞　　東京都立一橋高等学校　多言語交流部

「多言語交流部（ワン・ワールド）からのメッセージ」

 国際理解・国際協力奨励賞 横浜清風高等学校　横浜清風インターアクトクラブ

　 「食を通しての異文化理解」

 国際理解・国際協力奨励賞 兵庫県立柏原高等学校　ボランティア部（インターアクトクラブ）

「ニューカマー外国人への防災教育」

１６：２０～１６：５０ 司会：東京都立竹早高等学校

後援団体の団体紹介

台湾の高校生による研究発表

　台湾より生徒9名が英語で地球環境問題、人権、貧困の問題などについて、それぞれの切り口から問題提起を行い、あらゆる諸問題の克服のために、教育の重要性が説かれた。

１６：５０～１７：３０ 表彰式

弁論大会および研究発表会の講評・審査結果発表、諸連絡、記念撮影

１７：４０～１８：２０　 全国事務局長会議

１８：００～２０：００

生徒交流会　地球体験学習 JOCAから、生徒向けに講義が行われ、その後、軽食を食べながら、ファシリテーターのもと、参加者同士の活発な交流の場となった。

１８：３０～２０：３０　 教育懇談会

第２日目　 平成３０年８月８日（水）

９：００～１１：００

教育実践発表会（分科会）

分科会１（２０２）

* 「タイ国カセサート大学附属高校との国際交流と出前授業～ＳＳＨ研究開発および「化学英語」、英文アブストラクトの作成、ブリティッシュカウンシルとの交流を通して」

東京工業大学附属科学技術高等学校　森安　勝

* 「ＴＯＫＹＯ ＧＬＯＢＡＬ ＧＡＴＥＷＡＹが目指すもの」

東京都教育委員会

東京都の施策の１つで、２０１８年９月に開設予定の東京英語村（TOKYO GLOBAL GATEWAY）の取り組みについて、内容等を詳しく紹介した。

　　　分科会２（大会議室）

* 「国内における多文化共生」

東京都立一橋高等学校　角田　仁・小林　佳朗

東京都立一橋高校には様々な外国籍の生徒がおり、多言語交流部が活動している。国内における多文化共生のあり方やNPOや大学との連携について発表した。

* 「海外フィールドワーク・スタディーツアーの構築に関する報告」

順天中学校・高等学校　三井田真由美

SGHの指定校。課題解決学習やNGOと連携したスタディーツアーを報告した。

　 ９：００～１１：００

生徒対象「ＳＤＧｓの理解を深めるチョコレートを用いたワークショップ」

講師：東京都立武蔵高等学校　山藤旅聞

　　　チョコレートを実際に食べ比べをしながら、生徒の日常生活と世界が密接に関わっていることがワークショップ形式で楽しく学ぶことができた。SDGsに向き合おうという生徒が増えたのではないだろうか。

１１：１５～１２：１５

記念講演「義肢装具士が見たパラリンピック」

　　　　　　講師：高橋 俊潤氏（オットーボック・ジャパン株式会社、元青年海外協力隊員）

　　義肢装具士として、実際にパラリンピックで多くの選手をサポートしたリアルな経験が語られ、パラリンピックの理念や教育の意味を会場全体で共有することができた。

１２：２０～１２：４０

閉会行事（主催者挨拶、次期開催県挨拶、諸連絡）

９　　参加者数　３１７名　（教職員９９名、中学生・高校生１５６名、保護者など３４名、来賓・審査員１８名）

|  |
| --- |
| 第５５回研究大会　2018(平成30)年　　東京都（関東甲信越静地区）「東京2020オリンピック・パラリンピック大会開催を控えた多文化共生社会の在り方を求めて」を大会テーマとして、関東甲信越静地区での開催となった。現在、東京オリンピックに向けて、国・都・民間で、更なるグローバル化にむけて、様々な取り組みがなされている。都オリパラ担当課長が「東京都が進めるオリンピック・パラリンピック教育について」。元青年海外協力隊員の高橋俊潤氏が「義肢装具士が見たパラリンピック」と題して記念講演を行った。グローバル化が急速に進む中、積極的に国際化を目指す東京都の事業や国内での多文化共生の実践報告があり、今後の日本社会のありかたを考える大会となった。（文責：全国事務局長　高島） |

**１－２　全国理事会報告**

以下の通り、多くの全国理事の参加をいただき、議論をした。

**【第1回全国理事会】**

■日時：　平成３０（２０１８）年８月６日（月）1４:００～１７：００

■場所：　ＪＩＣＡ地球ひろば　２０３

■参加者：（敬称略）

【管理職４名】早川（東京：多摩工業）　大泉（東京：五日市）　中里（東京：北豊島工業）

松岡（奈良県：法隆寺国際）

【教員１４名】石森（宮城：仙台二華）大山（茨城：水戸第二）　宮﨑（和歌山：日高）

談儀（和歌山：南紀）　前田（奈良：近畿）　伊東（宮崎：宮崎学園）

高島（東京：永山）　竹山（東京：新宿山吹）　女屋（東京：竹早） 中村（東京：五日市）

林（東京：永山）　小林（東京：練馬工業）　吉野（東京：板橋有徳）　太田（東京：山崎）

**【第２回全国理事会】**

■日時：　平成３１（２０１９）年２月１６日（土）1３:３０～１７：００

■場所：　東京都立竹早高等学校

■参加者：（敬称略）

【管理職４名】早川（東京：多摩工業）　大泉（東京：五日市）　松岡（奈良県：法隆寺国際）

　　　　　　　中里（東京：北豊島工業）

【教員１２名】石森（宮城：仙台二華）　宮﨑（和歌山：日高）　談儀（和歌山：南紀）

前田（奈良：近畿）　　伊東（宮崎：宮崎学園）　藤田（福井：三国）、

竹山（東京：新宿山吹）　女屋（東京：竹早） 　中村（東京：五日市）

林（東京：永山）　　　吉野（東京：板橋有徳）　高島（東京：永山）

**１－３　「研究大会プログラムおよび大会報告書＋国際教育インフォメーション」の編集印刷**

　2017年度まで、「国際教育インフォメ―ション」をJICAから印刷代補助をいただき、5900部作成し、それを「JICAエッセイコンテストの応募要項」に同封していただき、すべての高校・中等教育学校（加盟校以外を含む）に配布していた。

　しかし、2018年よりJICAからの補助をいただくことができなくなったので、　「全国研究大会報告書」の中に、「国際教育インフォメーションの内容」を追加することにした。

以前より　JICAから印刷代（プログラムと報告書）50万円を上限として補助したいただいている。今年度は、50万円のうち「プログラム代20万円」「報告書＋インフォメ―ション代30万円」を目途に冊子の印刷を行った。

この50万円については、全国国際研会計報告には記載していない。（JICAが直接印刷会社に支払っているため）

ただし50万円超えた金額５５，６６０円は、全国国際研会計から支出した。

|  |
| --- |
| 「第55回全国国際教育研究大会東京大会報告書－国際教育インフォメ―ション－」　概要：B５版　７６ページ　２０１９年２月末発行　　　　印刷部数：１９００部＜内訳＞大会参加者２００部、各県事務局２０～５０部×３４＝１４００部、全国総会用５０部、次年度研究大会５０部、関係各機関用５０部、原稿寄稿者用５０部、事務局（賛助会員・未成立研用など）１００部、費用：３６０、７２０円（各都府県事務局への送料含む　全国国際研負担分５５、６６０円）　内容：大会報告書＋国際教育実践（各地区１以上）＋全国国際研紹介＋協力機関事業紹介）　　広報：内容は、全国国際研HPへ掲載 |

**1-４独立行政法人　国際協力機構（ＪＩＣＡ）との連携・協力**

　1 第５５回全国国際教育研究大会東京大会の「共催」

大会来賓派遣、英語・日本語弁論大会の審査及びJICA理事長賞を授与、国際理解および国際協力に関する研究発表会の審査及びJICA国内機関長賞を授与していただきました。また、「大会プログラム」「報告書」の印刷経費を支援していただきました。

２ 「JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト２０１８」の応募勧奨および審査協力（詳細は、資料参照）

●「１次審査」にご協力。　NPO国際研を含めて１００名【賛助会員を含む】

●「2次審査」に協力。

●「最終審査」：早川信一全国会長が審査員として協力。

●エッセイコンテスト応募状況

2018年度の作品応募数は、**高校生の部34,738作品（2017年度比109.6％）**となり、高校生の部は10%弱増加した。優秀者は海外研修としてラオス（高校生の部）へ派遣された。

**1-５組織化**

全国の組織化を大きな目標として活動を行っているが、残念なことに次の３県が２０１９年度より休会となる。２０１９年度より休会となる県：埼玉県、山梨県、鳥取県

＜休会となる主な理由と全国事務局からの対策案＞

　１教育委員会などからの助成金がなくなり、会の運営が厳しい。全国会費３万円が支払うことができない。

　　⇒○会費回収方法を検討いただけないか。（研修会ごとに参加費を回収など）。

○JICAエッセイコンテストの「１次審査」謝金の活用。

１名審査員を受けていただければ、各県事務局に対し、エッセイコンテスト事務局より１１０００円の事務手数料が支払われる。

２校務等が忙しく、研究会の仕事をすることが困難になっている。

　⇒○事務局輪番の見直し。輪番であると、仕事の内容を把握するのに時間がかかり、当番校の負担感が大きい。国際教育に関心のある先生方を中心に「県理事」を決めていただき、その理事が事務局を輪番で持ち回りすることはできないか。

　　○青年海外協力隊参加者やJICA教師海外研修参加者など国際教育に関心のある先生方の人材発掘。

３加盟校が少なく、会の運営が厳しくなっている。

　⇒○加盟校が少なく、農業高校中心または国際科のある学校中心の県がある。活動に広がりをもたせる意味でも、学科または公立・私立にかかわらず、広く加盟校を募集できないか。

　　高校生国際理解・協力研究発表会（SGH、とびたて留学JAPAN参加者など）や日本語弁論大会（外国人生

徒の入学の多い学校など）など学科にかかわらずニーズがある。

|  |
| --- |
| 【2019年度の休会県】（北海道・東北地区）　北海道　、山形、福島（３県）（関東甲信越静地区）新潟、静岡、埼玉、山梨（４県）（東海北陸地区）岐阜（１県）（中国地区）岡山、広島、山口、鳥取（４県）（九州地区）　福岡、大分、熊本、佐賀、沖縄（５県）　以上１７県　【休会ブロック】「中国地区」（団体組織）【賛助会員】　賛助会員（個人加盟）　現在4名（北海道２、山形１．広島１） |

「全国国際研」は、唯一の学校組織でかつ、教育委員会公認または高文連公認の国際教育研究会。

すべての県の加盟を目指していきたい。

**２　　２０１８年度会計決算及び監査報告（案）**



**３　２０１９年度役員選出　（案）**

|  |
| --- |
| **２０１９年度　全国国際教育研究協議会　全国理事（管理職）** |
| 役職名 | 氏名 | 職名 | 勤務校　住所 | 　 | TEL/FAX |
| 全国会長 | 早川　信一 | 校長 | 東京都立科学技術高等学校　　　　　　　　　　　  | TEL  | 03-5609-0227 |
| 136-0072　東京都江東区大島1-2-31 | FAX  | 03-5609-0228 |
| 副会長 | 西館　実 | 校長 | 青森県立名久井農業高等学校 | TEL  | 0178-76-2215 |
| （東北） | 039-0502　青森県三戸郡南部町下諏訪平１ | FAX  | 0178-76-2234 |
| 副会長 | 伊原　伸一郎 | 校長 | 神奈川県立弥栄高等学校 | TEL  | 042-758-4695 |
| （関東甲信越静） | 252-0211　神奈川県相模原市中央区弥栄3-1-8 | FAX  | 042-751-6137 |
| 副会長 | 吉田　繁 | 校長 | 福井県立高志高等学校 | TEL  | 0776-24-5175 |
| （東海北陸） | 910-0854　福井県福井市御幸2-25-8 | FAX  | 0776-24-5177 |
| 副会長 | 松岡　正晃 | 校長 | 奈良県立法隆寺国際高等学校 | TEL  | 0745-74-3630 |
| （近畿） | 636-0104　奈良県生駒郡斑鳩町高安2-1-1 | FAX  | 0745-75-3286 |
| 副会長 | 澤山　陽一 | 校長 | 愛媛県立伊予農業高等学校 | TEL  | 089-982-1225 |
| （四国） | 799-311　愛媛県伊予市下吾川1433　 | FAX  | 089-983-4177 |
| 副会長 | 稲用　光治 | 校長 | 宮崎県立宮崎工業高等学校 | TEL  | 0985-51-7231 |
| （九州） | 880-8567　宮崎県宮崎市天満町9-1 | FAX  | 0985-51-7287 |
| 理事 | 德岡　毅也 | 教頭 | 三重県立いなべ総合学園高等学校 | TEL  | 0594-74-2006 |
| 第57回三重大会 | 511-0222　三重県いなべ市員弁町御薗632 | FAX  | 0594-74-4104 |
| 理事 | 萩谷　磨 | 校長 | 東京都立山崎高等学校 | TEL  | 042-792-2891 |
| 195-0074　東京都町田市山崎町1453-1 | FAX  | 042-794-0440 |
| 理事 | 中里　真一 | 校長 | 東京都立北豊島工業高等学校 | TEL  | 03-3963-4331  |
| 174-0062　東京都板橋区富士見町28-1 | FAX  | 03-3963-4454 |
| 理事 | 江森　忍 | 副校長 | 東京都立大島高等学校 | TEL  | 04992-2-1431 |
| 100-0101　東京都大島町元町字八重の木127 | FAX | 04992-2-2461 |
| 理事 | 一ノ瀬　淳 | 副校長 | 東京都立瑞穂農芸高等学校 | TEL  | 042-557-0142 |
| 190-1211　東京都西多摩郡瑞穂町石畑2027 | FAX | 042-556-2439 |
| 監事 | 橋本　広明 | 校長 | 東京都立中野工業高等学校 | TEL  | 03-3385-7445 |
| 165-0027　東京都中野区野方3-5-5 | FAX  | 03-3385-7434 |
| 監事 | 齋藤　義弘 | 校長 | 東京都立農業高等学校 | TEL  | 042-362-2211 |
| 183-0056　東京都府中市寿町 1-10-2　　 | FAX  | 042-360-0642 |

**２０１９年度　　全国国際教育研究協議会　全国顧問**

|  |  |
| --- | --- |
| 氏　名 | 役　　職　・　元　勤　務　校　等 |
| 矢田部 正照 | 元全国会長 | 元東京都立農産高等学校長　／現NPO国際教育協会理事長 |
| 豊田　岩男 | 元全国会長 | 元東京都立成瀬高等学校長　 |
| 高田　幸一 | 元全国会長 | 元東京都立雪谷高等学校長 |
| 松本　光正 | 元全国会長 | 元東京都立工芸高等学校長 |
| 宮下　義弘 | 前全国会長 | 前東京都立練馬工業高等学校長 |
| 斉藤　宏 | 元全国事務局長 | 元全国国際教育研究協議会事務局長 |
| 有里　泰徳 | 前全国常任理事 | 前九州地区・宮崎県国際教育研究協議会事務局長 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **２０１９年度　　全国国際教育研究協議会　全国理事(教員）** |  |  |
| 役職・担当 | 氏名 | 勤務校 | TEL/FAX | 県 |
| 事務局長 | 高島　みゆき | 東京都立永山高等学校 | TEL 042-374-9891 | 東京 |
| 企画調整全般 | 206-0025　東京都多摩市永山５－２２ | FAX 042-371-5615 |
| 副事務局長 | 中村　俊佑 | 東京都立五日市高等学校 | TEL　042-596-0176 | 東京 |
| 第55回東京大会事務局 | 190-0164　東京都あきる野市五日市894 | FAX　042-596-1250 |
| 副事務局長 | 竹山　哲司 | 東京都立六郷工科高等学校 | TEL　03-3737-6565 | 東京 |
| 総務渉外 | 144-8506　東京都大田区東六郷2-18-2 | FAX　03-5480-6500 |
| 副事務局長 | 林　真代 | 東京都立永山高等学校 | TEL 042-374-9891 | 東京 |
| 会計　 | 206-0025　東京都多摩市永山５－２２ | FAX 042-371-5615 |
| 常務理事 | 吉野　翔子　 | 東京都立板橋有徳高校 | TEL 03-3937-6911 | 東京 |
| 英語・日本語弁論大会 | 175-0083　東京都板橋区徳丸2-17-1 | FAX 03-3937-6914 |
| 常務理事 | 太田　進 | 東京都立山崎高等学校 | TEL 042-792-2891 | 東京 |
| 生徒研究発表・弁論大会 | 195-0074　東京都町田市山崎町1453-1 | FAX 042-794-0440 |
| 常務理事 | 女屋　隆充 | 東京都立竹早高等学校 | TEL 03-3811-6961 | 東京 |
| 生徒研究発表 | 112-0002　東京都文京区小石川4-2-1 | FAX　03-3812-3565 |
| 常務理事 | 坂本　美香 | 東京都立科学技術高等学校　　　　　　　　　　　  | TEL03-5609-0227 | 東京 |
| 総務渉外 | 136-007　2東京都江東区大島1-2-31 | FAX03-5609-0228 |
| 常務理事生徒研究発表 | 木村　光宏 | 横浜県立横浜国際高等学校 | TEL 045-721-1438 | 神奈川 |
| 報告書・組織拡大 | 232-0066　神奈川県横浜市六ッ川1-731 | FAX 045-742-9493 |
| 常務理事 | 大山　峰弘 | 茨城県立水戸第二高等学校 | TEL　029-224-2543　 | 茨城 |
| 生徒研究発表 | 310-0062 茨城県水戸市大町2-2-14 | FAX　029-225-5049 |
| 常務理事 | 玉置　瞬 | 千葉県柏市立柏高等学校 | TEL04-7132-3460 | 千葉 |
| 生徒研究発表 | 277-0801柏市船戸山高野325-1 | FAX04-7134-3183 |
| 常務理事（東北地区担当） | 石森　広美 | 宮城県仙台二華高等学校 | TEL 022-296-8101 | 宮城 |
| 生徒研究発表・組織拡大 | 984-0052　宮城県仙台市若林区連坊1-4-1 | FAX 022-296-8103 |
| 常務理事（東海北陸担当） | 藤田　博雅 | 福井県立三国高等学校 | TEL　 0776-81-3255 | 福井 |
| 英語・日本語弁論大会 | 913-8555　福井県坂井市三国町緑ヶ丘2-1-3 | FAX　0776-81-3566 |
| 常務理事（近畿地区担当） | 宮崎　裕之 | 和歌山県立日高高等学校 | TEL　0738-22-3151 | 和歌山 |
| 英語・日本語弁論大会　 | 644-0003　和歌山県御坊市島45 | FAX　0738-23-2922 |
| 常務理事（近畿地区担当） | 談儀　善弘 | 和歌山県立南紀高等学校 | TEL　0739-22-3776 | 和歌山 |
| 組織拡大 | 646-0024　和歌山県田辺市学園1-88 | FAX　0739-26-0792 |
| 常務理事 | 前田　忠彦 | 奈良県県立法隆寺国際高校 | TEL　0745-74-3630 | 奈良 |
| 第56回奈良大会事務局　 | 636-0104　奈良県生駒郡斑鳩町高安2-1-1 | FAX　0745-75-3286 |
| 常務理事（四国地区担当） | 森　恵美子 | 愛媛県立伊予農業高等学校 | TEL 089-982-1225　 | 愛媛 |
| 生徒研究発表 | 799-3111　愛媛県伊予市下吾川　1433 | FAX　089-983-4177 |
| 常務理事（九州地区担当） | 伊東　望 | 宮崎学園中学・高等学校 | TEL 0985-23-5318 | 宮崎 |
| 組織拡大 | 880-8503　宮崎県宮崎市昭和町3 | FAX　985-27-7202 |

**４　２０１９年度　事業計画　(案)**

**4-1２０１９年度の活動方針案**

|  |
| --- |
| グローバル化、グローバル人材の育成、オリンピック・パラリンピック教育と、今ほど「国際教育の重要性」が叫ばれている時代はない。以下の項目について重点的に活動を広げていく。１、「高校生国際理解・国際協力に関する研究発表会」の充実（各県・地区での実施）２、組織拡大：休会県の個人加盟及び再加盟の周知、高文連との連携（組織強化）３、休会県が増え、会計も逼迫してきている。活動内容や予算の検討。４、グローバル化、ＳＤＧｓなどの教材開発５、他団体（NGO/NPO/国連関連団体／大学等）や他組織（高文連／国際学科／SGHなど）との連携 |

**4-2　今後の全国国際教育研究大会開催について**

全国研究大会は地区の輪番で行うこととする。

現在の加盟状況は、東北地区４県、関東甲信越静地区１０県、東海北陸地区５県、近畿地区６県、四国地区４県＋中国地区２県、九州地区５県⇒3県である。関東甲信越静地区は県数が多いことから＋１の輪番と考えると、7年に1回全国大会（関東甲信越静は2回）がまわってくることになる。近年の開催状況を踏まえて、以下のように大会を開催する。なお、特別な事情の場合、相互の地区の了承が得られれば、順番をかえることもできる。

　全国国際教育研究大会　大会開催県・地区（案）

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 大会回 | 弁論大会（英語・日本語） | 西暦 | 平成 | 月日 | 開催地 | 開催県 | ブロック |
| 44回 | 第27回英語弁論 第７回日本語弁論 | 2007 | 19 | 8.23～24 | 島根県・出雲市　ビッグハート出雲 | 島根 | 中国 |
| 45回 | 第28回英語弁論 第８回日本語弁論 | 2008 | 20 | 8.21～22 | 埼玉県浦和コミュニティーセンター | 埼玉 | 関東 |
| 46回 | 第29回英語弁論 第９回日本語弁論 | 2009 | 21 | 8.21～22 | 青森県八戸市ウェルサンピア八戸 | 青森 | 東北 |
| 47回 | 第30回英語弁論 第10回日本語弁論 | 2010 | 22 | 8.20～21 | 茨城県・つくば市　筑波学院大学 | 茨城 | 関東 |
| 48回 | 第3１回英語弁論 第11回日本語弁論 | 2011 | 23 | 8.18～19 | 和歌山県和歌山市和歌山ビック愛 | 和歌山 | 近畿 |
| 49回 | 32回英語弁論 12回日本語　第1回研究発表 | 2012 | 24 | 8.23～24 | 東京都JICA球ひろば（広尾） | 東京 | 関東 |
| 50回 | 33回英語弁論 13回日本語　第2回研究発表 | 2013 | 25 | 8.22～23 | 宮崎県 宮崎市民プラザ | 宮崎 | 九州 |
| 51回 | 34回英語弁論 14回日本語　第3回研究発表 | 2014 | 26 | 8.７～8.　 | 福井県AOSSA（福井県民ホール） | 福井 | 東海北陸 |
| 52回 | 35回英語弁論 15回日本語　第4回研究発表 | 2015 | 27 | 8.20～21 | 千葉県　神田外語大学 | 千葉 | 関東 |
| 53回 | 36回英語弁論 16回日本語　第5回研究発表 | 2016 | 28 | 8.18～19　 | 高知県　県立県民文化ホール | 高知 | 四国 |
| 54回 | 37回英語弁論 17回日本語　第6回研究発表 | 2017 | 29 | 8.7～8 | 岩手県花巻市花巻温泉 | 岩手 | 東北 |
| 55回 | 38回英語弁論 18回日本語　第7回研究発表 | 2018 | 30 | 8.7～8 | 東京　JICA地球ひろば（未定） | 東京 | 関東 |
| 5６回 | 3９回英語弁論 19回日本語　第8回研究発表 | 201９ | 31 | 8.8～9 | 奈良県　奈良県文化会館 | 奈良 | 近畿 |
| 57回 | 40回英語弁論 20回日本語　第9回研究発表 | 2020 | 32 |  | 三重県 | 三重 | 東海北陸 |
| 58回 | 41回英語弁論 21回日本語　第10回研究発表 | 2021 | 33 |  |  |  | 九州 |
| 59回 | 42回英語弁論 22回日本語　第12回研究発表 | 2022 | 34 |  |  |  | 関東 |
| 60回 | 43回英語弁論 23回日本語　第13回研究発表 | 2023 | 35 |  |  |  | 四国中国 |
| 61回 | 44回英語弁論 24回日本語　第14回研究発表 | 2024 | 36 |  |  |  | 東北 |
| 62回 | 45回英語弁論 25回日本語　第15回研究発表 | 2025 | 37 |  |  |  | 関東 |
| 63回 | 46回英語弁論 26回日本語　第16回研究発表 | 2026 | 38 |  |  |  | 近畿 |

　＊今年度中に、上記の赤色の研究大会開催についてある程度の目途を立てたい。

**４－３　　理事会の予定と交通費等の支出について**

１）２０１９年年予定

第1回全国理事会：２０１９年８月７日（火）１４：００～１７：００　奈良大会前日

第2回全国理事会：２０２０年2月（土）１３：００～１７：００　（予定）東京都内高校

2）全国会計「調査研究費」として以下の項目を支出する。

 ○第１回全国理事会（８月全国大会前日）：交通費（宿泊費）

○第２回全国理事会（２月）：交通費（宿泊費 ）

○休会県への会再発足への依頼のための訪問

**４-４　「第56回全国国際教育研究大会奈良大会報告書－国際教育インフォメ―ション－」編集・発行について**

　概要：B５版　８０ページ　２０２０年２月末発行

印刷部数：１９００部～２０００部

＜内訳＞大会参加者２００部、各県事務局２０～５０部×３４＝１４００部（各県配布冊数の検討）

全国総会用５０部、次年度研究大会５０部、関係各機関用５０部、原稿寄稿者用５０部、

事務局（賛助会員・未成立研用など）１００部、

費用：３８万円（各都府県事務局への送料含む　全国国際研負担分８万円）

　内容：大会報告書＋国際教育実践（各地区１以上）＋全国国際研紹介＋協力機関事業紹介）

　 国際教育実践（各地区１以上）:各地区で１本の教育実践報告を提出していただきたい。

広報：内容は、全国国際研HPへ掲載

　 編集：全国事務局で行う。

**4-５　全国組織の拡充・連携（休会県などのへのアプローチ）**

　　全国国際教育研究協議会の大きな強みは、「国際・開発教育における唯一の学校現場の全国組織。そして全都府県の教育委員会または高文連公認団体」ということである。今後も全県加盟に向けて連携を深めていきたい。

|  |
| --- |
| 【休会県】2019年（北海道・東北地区）　北海道　、山形、福島（３県）（関東甲信越静地区）新潟、静岡、埼玉、山梨（４県）（東海北陸地区）岐阜（１県）（中国地区）岡山、広島、山口、鳥取（４県）（九州地区）　福岡、大分、熊本、佐賀、沖縄（５県）　以上１７県　【賛助会員】　賛助会員（個人加盟）　（北海道２、山形１．広島１） |

○文部科学省など大きな流れの中で、研究会活動が展開できないか。　高文連との連携の検討。

○休会県には、「賛助会員としての個人加盟　（北海道２、山形１．広島１）」や「再加盟」を、働きかけをする。

○意義のあるそして魅力ある研究会にするにはどうしたらよいか検討する。

○他団体のＪＩＣＡ、国際交流基金、青年海外協力協会（JOCA）、日本国際協力センター（JICE）、ユネスコスクール加盟校、ESD推進校研究会、多文化共生の研究会、開発教育協会　青年海外協力隊OB会他などとも連携・協力。

○全国理事（地区担当など）が休会県を直接訪問するなどして、会員拡大、組織作りをする。

**4-6　事務作業の委託等**

１）全国国際研全国事務局作業が膨大であり、その軽減のために、特定非営利活動法人：全国国際教育協会(JAGE)

理事長：矢田部　正照（元全国会長）業務委託をしたい。

（全国国際教育協会は、主に現役の時に国際研の活動に携わった方が、退職後も引き続き国際教育活動に携わることができ、全国国際研または各県国際研の活動をサポートするためにできたNPO法人である。）

|  |
| --- |
| 2019年度委託事務作業：１）　４月：当初の各県事務局名簿作成２）　６月～７月：加盟校名簿の作成今後「５月全国総会の出席および委任状のとりまとめ」「メーリングリストなどネットワーク作り」等も検討していきたい。謝礼：前年度まで全国国際教育研究大会に5万円の補助をいただいていた。当面、その金額を当てていきたい。 |

２）各都道府県で全国国際教育協会(JAGE)県支部を設立

各県で、NPO国際研の県支部を作り、退職後も引き続き国際教育活動に携わっていただけると幸いと考える。

また県事務局も、事務作業が大変であると伺っている。活動の一部として、国際研活動のサポートをしていただけるたらと考える。

**4-7　「JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2019」応募勧奨と審査への協力について　（案）**

　以下は正式に決定ではなく、案である。詳細は後述【資料１】p19参照

独立行政法人国際協力機構(JICA)は、前身の移住事業団であった1962年度に「海外移住懸賞作文」として開始され、2019年度で高校生の部が58回目を数える歴史の長い事業である。国際研は、当初からJICAエッセイコンテストに協力してきた。

**１）連携協力**

2018年度の協力内容は以下のようになっている。

1. 1次審査：「全国国際研」「NPO国際研」の合同
2. 2次審査：JICA支部を基準としたブロックごとに国際研から審査員１～2名参加

＊2次審査員は1次審査に参加しない。

1. 最終審査員：早川　国際研全国会長

④　全国国際研が「後援」

**２）「1次審査」のお願い　※2018年度。2019年度は一部異なります。**

○審査は、基本1人300作品前後を審査する。150作品希望も可能。　150作品前後から1作品を選ぶ。

　　※2019年度は審査倍率が150倍から200倍に変更される見込みで、審査数も変更される可能性があります

○審査員は、昨年度実績で約100名に先生方のご協力が必要である。

○審査を行うことで、JICAエッセイコンテストをより理解いただき、コンテストの周知をお願いしたい。

○「県事務局に事務手数料11000円」と「審査員に審査謝金1通につき**108円**」が支払われる。

エッセイ事務局から、「兼業願」を出していただく。

※2019年度から審査謝金は1通につき86円となります。事務手数料の変更はありません。

○事務手数料および審査謝礼を、国際研の活動資金としてお使いいただいている県もある。

|  |
| --- |
| ＜１次審査員　申し込みについて＞1）7月末までに、1次審査にご協力いただける都道府県事務局は、全国事務局まで申し出てください。だいたい何人くらい審査員が可能かご連絡ください。2）8月23日（金）までに、各都道府県事務局は、所定の用紙に、審査員氏名、所属校名、連絡先、送付先、振込先等を記入して、エッセイ事務局までemailでお送りください。3）審査期間：詳細は【資料１】参照 　　実施団体　青年海外協力協会（JOCA　ｼﾞｮｶ）　　 |

**３）「2次審査」のお願い**

　昨年、全国国際研が10数年ぶりに「2次審査の審査員（ＪＩＣＡ各地区別）」となった。

しかし、2次審査を一同に集まって審議をする機会がなかった。地区によって審査総数が様々であったなどの意見が出た。

2019年4月23日に、「全国国際研」とエッセイ実施団体である「青年海外協力協会（JOCA　ｼﾞｮｶ）」とエッセイコンテスト審査について打ち合わせをし、「2次審査については一堂に集まり審議する時間を確保してほしい。」「2次審査の審査本数が多くならないように配慮してほしい」などと要望を出した。詳細は後日、連絡。

　　2次審査員は、1次審査員にならないようにする。（重複不可）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

**【事務連絡】**

**１　加盟校名簿**

１）　５月末までにに、事務局から、各都道府県の「昨年度のデーター」をemailで送ります。

２）　各県事務局長は、６月３０日までに　指定されたアドレスまで、データーで送り返してください。

３）　加盟校名簿は、全国大会までに各県に配布します。（添付ファイル（エクセルデーター）でお送りします）

　　　この加盟校名簿作成については、「NPO国際研」に委託しようと考えている。

**２　教育功労者推薦書式**本会よりの表彰　全国研究大会（東京大会）の開会式にて感謝状贈呈する。

　　　６月末日までに、事務局長(高島)アドレス**zinfo@jafie.jp** 電子メールで連絡ください。

**３　Webネットワークの運営拡充**

１）各都道府県事務局との電子メールでの連絡

従来に引き続き、全国から各県事務局は、電子メールで行いたいと思います。

　　　**zinfo@jafie.jp**全国会長、全国事務局長、広報など全国事務局理事の複数に同時に送信されます。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　連絡があれば、このアドレスを使用してください。

**zen\_staff@jafie.jp**全国事務局長、広報など全国事務局から、各都道府県事務局に一斉送信され

るものです。これをそのまま「返信」しても送信できません。（一方通行です）

全国事務局への連絡は、上記zinfo@jafie.jpを使用して返信ください。

２）　全国国際教育研究協議会サーバドメイン名　　　　★　全国国際教育研究協議会HP　　　<http://jafie.jp>

　ドメイン名　　jafie . jp

 ※jafie･･･　Japan Association For International Education　の略（ジャフィー）jp…　JPドメイン

３）　全国組織URLアドレス

　http://jafie.jp

４）　構成

　　　　http://jafie.jp-----/taikai

 　 -----/tokyo

 　 -----/…各県や別グループによるフォルダ領域

　　　　例１）　全国大会のアドレス：　http://jafie.jp/taikai/　　　　　　例２）　東京都のアドレス：　http://jafie.jp/tokyo/

**４　　２０１９年度会費の納入**

　　　**締切　7月3１日までに、会費３０，０００円**を振り込みください。

振り込み後、全国会計にFAXで「振り込み月日」をご連絡ください。

|  |
| --- |
| 送金先：　三井住友銀行　　新宿西口支店　普通預金　　　　　　店番号２５９　　　　口座番号９２５９８８７　　　　　　名　義　　　　　　　全国国際教育研究協議会 |

**【全国会計】**　　　　東京都立永山高等学校　　　　　　　林　真代（まさよ）

〒206-0025　　東京都多摩市永山5-22　　TEL 042-374-9891　　　　FAX 042-371-5615

e-mail　　Masayo\_Hayashi@education.metro.tokyo.jp

**５　　研究助成**

地区ブロック協議会への助成・・・**「1ブロック3万円ずつ」**年度ごとに助成します。

東北・関東甲信越静・東海北陸・近畿・（＊中国ブロック＝現在未成立）・九州の６ブロック。

申請書（書式は任意。ブロック会長印を押印）を、締切り12月25日までに全国事務局会計まで郵送してください。その後助成金の支払いが行われます。（注意！自動的に支払われるものではありません）

ブロック助成金申請書式　　ブロック事務局校のみに配布しています。１２月２５日までに、ブロック公印を押印した文書(書式は任意)で申請をお願いします。

**５　　2019年度会計予算　（案）**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **平成31年度(２０１９）　予算** |  |  |  |
| 　平成31(201９)年４月１日～令和２(2020)年３月３１日 |  |
| １、収入の部 |  |  |  |  |
| 収入項目 | 予算額 | 前年度決定額 | 差額 | 備考 |
| 会費 | 900,000  | 960,000  | -60,000 | 30,000円×30県（31年度より鳥取、埼玉、山梨県が休会） |
| 個人会費 | 4,000  | 4,000  | 0 | 29年度4名個人会員加入 |
| 賛助金 | 500,000  | 500,000  | 0 | 日本国際協力センター |
| 雑収入 | 27,000 | 27,010 | -10 | 全国総会後懇親会会費、預金利息等 |
| 前年度繰越金 | 844,245  | 738,683  | 105,562 | 　 |
| **合計** | **2,275,245** | **2,229,693**  | **45,552** | 　 |
| 休会県：北海道、山形、福島、新潟、埼玉、山梨、岐阜、静岡、岡山、広島、山口、鳥取、福岡、大分、熊本、佐賀、沖縄　計１７県 |
|  |  |  |  |  |
| ２、支出の部 |  |  |  |  |
| 支出項目 | 予算額 | 前年度決定額 | 差額 | 備考 |
| 研究調査費 | 400,000 | 410,804 | -10,804 | 全国理事会旅費・宿泊費等　 |
| 教育研修費 | 180,000 | 180,000 | 0 | 地区助成金　30,000円×6地区 |
| 研究大会運営費 | 700,000 | 600,000 | 100,000 | 奈良大会運営費 |
| 旅費・交通費 | 80,000 | 0 | 80,000 | 奈良大会：文科省、全国会長、事務局長 |
| 通信・運搬費 | 30,000 | 29,442 | 558 | 　 |
| 印刷費 | 80,000 | 55,660 | 24,340 | 大会報告＆インフォメ―ション印刷代 |
| 消耗品費 | 70,000 | 64,594 | 5,406 | 全国大会楯、賞状、賞状筒、筆耕料他 |
| 会議費 | 40,000 | 41,600 | -1,600 | 総会会場使用料、総会後の懇親会補助 |
| 一般運営費 | 10,000 | 3,240 | 6,760 | 振込手数料他 |
| 予備費 | 685,245 | 814,353 | -129,108 | 次年度への繰越金とする　＊１ |
| 合計 | **2,275,245** | **2,199,693** | **75,552** | 　 |
|  |  |  |  |  |
| ＊１　会費の納入前に、研究大会運営費が必要になるため、次年度への研究大会運営費として予備費を計上している。休会県が増え、予備費（繰越金）が減少しているので、今後、会の活動を検討する必要がある。＊２　前年度までの「ＪＩＣＡとの共同事業費（国際教育インフォメ―ション印刷費)」はなくなったので、項目立てから削除した。　「全国国際教育インフォメ―ションの内容」は、「全国国際教育研究大会報告書」に組み入れた。 |

**６　第56回全国国際教育研究大会奈良大会**

**第５６回全国国際教育研究大会奈良大会**

**兼第４４回近畿ブロック高校生交流セミナー(案)**

 “古き都より世界に向けて　Learn Now And Go Beyond

１　大会趣旨

時代の進歩とともに世界を捉えるパラダイムは変化を遂げ、地球規模の視点が必要となる時代が既に始まっています。国際的な相互協力の関係は益々その重要性を増し、国際社会が持続可能な開発を目指し、直面する様々な課題を解決すべく動き出している現状において、問題解決に取り組む主体は国家や団体だけにとどまらず、私たち一人一人の力に求められています。

　おりしも2015年第70回国連総会で『持続可能な開発のための2030アジェンダ（SDGｓ）』が採択されました。人間、地球及び繁栄のための行動計画が実行に移されており、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的社会など、持続可能な開発のための諸目標を達成すべく、官民が一体となり尽力しています。

　古都奈良は万葉の時代に大陸文化を理解し、積極的に取り入れました。当時をしのばせる遺産は過去に交流が積極的に行われていたことを物語っています。この地に日本各地から高校生が集い、国際理解やSDGsに関わる諸問題解決について研究・実践報告を行い、交流を深められることは掛け替えのない機会です。奈良大会が地域・全国の国際教育に寄与し、高校生が積極的にこれからの世界に関心を寄せ行動を起こすための場であることを願い、本大会のテーマを設定しています。

２　主催 全国国際教育研究協議会

３　共催 独立行政法人　国際協力機構/ 奈良県教育委員会

 近畿ブロック高等学校国際教育研究協議会

４　主管　　 奈良県高等学校国際教育研究協議会

５　後援 外務省　　文部科学省　　独立行政法人国際交流基金

（申請中も含む）

 一般財団法人日本国際協力センター　公益社団法人青年海外協力協会

 京都府教育委員会　大阪府県教育委員会　兵庫県教育委員会　滋賀県教育委員会

 和歌山県教育委員会

６　会期 令和元年８月８日（木）から８月９日（金）まで

７　会場 奈良県文化会館（〒630-8213 奈良県奈良市登大路町30）

１０　大会日程

＜１日目＞　８月８日（木）

|  |
| --- |
| ９：００～　９：３０ ・受付９：３０～１０：００ ・開会行事　　　主催者挨拶　共催者挨拶　来賓挨拶　功労者表彰　諸連絡１０：２０～１２：００ ・第３９回高校生英語弁論大会　・第１９回高校生日本語弁論大会　　　　　　　　　　 １３：００～１４：００ ・全体交流１４：２０～１５：４０ ・記念講演　　　講師　　上野　誠　先生（奈良大学文学部教授）演題　『古代の国際交流と庭園文化』１６：００～１７：００ ・表彰式　　英語弁論大会・日本語弁論大会講評および結果発表１７：３０～１９：００ 　　・生徒交流会・全国事務局長会議（１７：１０～１８：００）・教育懇談会　　　（１８：３０～２０：３０） |

＜２日目＞　８月９日（水）

|  |
| --- |
| ８：３０～　８：５５ ・受付９：００～１０：３０ ・第８回国際理解・国際協力に関する生徒研究発表会　　　　　　　　　　　　　　青森明の星高等学校、東京都　聖徳学園高等学校、富山国際大学付属高等学校、和歌山県立日高高等学校、愛媛県立伊予農業高等学校、徳島県立徳島商業高等学校１０：４０～１１：４０ ・生徒ワークショップ兼近畿ブロック高校生交流セミナー・教員による研究発表（教員、一般向け）　　　　　　　　　　　　　　石森広美教諭（宮城県仙台二華高等学校）、青野幸代教諭（富山国際大学付属高等学校）、　　　　　　　　　　　　　　奈良県育英西中学・高等学校教諭１２：００～１２：３０ ・表彰式　　　生徒研究発表講評および結果発表１２：３０～１３：００ ・閉会行事　　主催者挨拶　次期開催県挨拶　諸連絡　記念撮影 |

**Ⅶ　関係諸機関から**

**１ JICA高校生エッセイコンテスト**

**２ 拓殖大学　第２1回　後藤新平・新渡戸稲造記念　高校生・留学生作文コンクール**

　全国国際研が「後援」しています。詳しくは、拓殖大学HPをご覧ください。

|  |
| --- |
| 応募期間：　２０１９年７月1日（日）～9月10日（火）必着テーマ：　　私の考えるSDGs２０１５年、国連は２０３０年までの持続可能な開発目標（SDGs）を掲げました。世界には子供たちが学校で机に向かうことが当然とされている地域や、食品が余ってしまいやむなく廃棄をする地域もあります。一方で労働力として大人の仕事を手伝うことが日常となっている地域や、１日の食事を得ることもままならない地域もあります。**地球を一つの家族と考えたとき、誰もが満足する社会を実現するために、わたしたちに何が出来るでしょうか？あなたの考えをお書きください。**原稿用紙：　A4原稿用紙　横書き　4枚以上5枚以内表彰　　　：　後藤新平賞（最優秀賞）1点（賞状、奨学金20万円）　　　　　　　　読売新聞社賞1点（賞状、奨学金10万円）　　　　　　　　優秀賞４点（賞状、奨学金5万円）　　　　　　　　入賞５点（賞状、奨学金３万円）　　　　　　　　奨励賞２０点（賞状、１万円図書カード） |

**３　 ＮＰＯ国際研(国際教育協会/JAGE)**　　**名称　特定非営利活動法人　全国国際教育協会(JAGE)**

理事長：矢田部　正照（元全国会長）

詳しくは、JAGEのHPをご参照ください。　http://www.kokusaiken.org/npo/index.htm

国際研をサポートし、国際研でできなかった（できにくい）分野を強化し、国際教育を推進します。

全国国際研と並立組織で、協力関係を維持し、退職校長など国際研OBを中心に声をかけ、各地での地区委員会組織を作っていきます（退職校長やOBの人脈と専門性を最大限活用）

**【資料１】**

**１　＜昨年度の振りかえり＞　「JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2018」を終えて**

１　募集テーマについて

今年度のテーマは**「世界の幸せために私たちができること」であり、「世界」や「幸せ」という大きなテーマ**について考えることになり、バリエーションに富んだ作品が増えた傾向がある。社会問題や新しいトピックスから「食品ロス」、「SDG’s」、「AI」などをテーマにした作品や、7月の西日本豪雨災害から「水の大切さ」や「ボランティア」について書かれている作品もあった。また、「そもそも幸せとは何だろう」というように、「幸せの定義」について考える作品が多かったのも今年度の特徴の一つと言える。そして考えた後に自身のこれまでの行動を見つめ直し、「新しい目標・計画を実行してみた」という行動変容プロセスを経験した生徒も多く見受けられ、本事業の目的に適ったテーマ設定だったと言える。中学校、高校それぞれの審査員長からも、「今年はとてもレベルが高かった」とのコメントをいただいている。

２　作品傾向分析

【中高共通】

　　以下の3つのテーマについて書かれている作品が多かったと思われる

1. 「知ること」、「募金」

⇒エッセイのテーマが「私たちができること」であるため、自分にもできる身近なことについて考えている。

1. 「地球温暖化」、「環境」

⇒7月に発生した「西日本豪雨災害から派生して描いた作品も多かった」

1. 「戦争」、「難民」、「食料（飢餓）」

⇒「平和」と相反するものは「戦争・紛争」。だからこそ「戦争・紛争」をなくせばいいという考えが多い。

【新しい話題・キーワード】

　　「ランドセル（JOICEP）」、「服プロジェクト(ユニクロ)」、「食品ロス」、「SDGｓ」、「AI」などが挙げられる。また、7月の西日本豪雨災害から「水の大切さ」や「ボランティア」について書かれている作品もあった。

　【自己の内面と向き合う】

　　　世界の現状、途上国の実態を知ったことで自分の生活を反省し、あるいは自己嫌悪に陥り、自分はなんて恵まれているのだろうと実感する生徒も多く、かつ自分の生活の在り方や親に対する態度を改めるような生徒もいた。

　　　例）・自分には何もできないというモヤモヤ感からできることを始めよう

　　　　　⇒残さず食べる、親に感謝する、世界をもっとよく知る、友達に伝える

　　　　・幸せって何だろう、「幸せの定義」について考察

　【審査員からのアンケートコメント】

・「自分はこうする」という行動計画がなくプレゼンテーションになっているもの検索した情報を鵜呑みにしている作品も見られた

　　　　・精神面のことよりも、物質面のことについて書いている作品が多い

　　　　・自分自身の生活や経験に照らし合わせながらよくかけている作品も多い

　【高校作品内容例】

青年海外協力隊だった叔母、　女児差別、　終戦記念日、　シビルエンジニア、　イエメンの生徒との動画交流、

1学級1国運動、　国際貧困ライ、ン　偏見、　災害時の外国人支援、　自分自身の幸せ、　宗教と宗教問題、

**２　「JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2019」実施要領　（案）**

■最終審査員（予定）敬称略

【高校生の部】星野　知子　 審査員長（女優／エッセイスト）　　早川信一（全国国際教育研究協議会 会長）

乾正人（産経新聞東京本社 論説委員室　論説委員長）　田中　一史（全日本空輸株式会社東京支店　部長）

宮崎成人（世界銀行 東京事務所 駐日特別代表）　　西健太郎　（クールパートナーズ高校生新聞事業部編集長）

【中学生・高校生共通】　小山内美江子　名誉審査員長（脚本家／JHP・学校をつくる会代表理事）

赤松武（外務省国際協力局審議官）　　天田聖（JICA地球ひろば　所長）　　岩上憲三　（JICA国内事業部長）

■　募集テーマ　　　「よりよい世界の未来を目指して　　　～私たちから始まる一歩～」

■　募集規定　　 　 (高校生の部) ：400字詰　　原稿用紙4枚以内(日本語のみ)

■募集期間（予定）2019年6月7日(金)から同年9月11日(水)まで

■審査期間（予定）一次審査；2019年9月18日(水) ～ 10月14日(月) **※10月16日（水）返送必着**

二次審査；2019年10月22日(火) ～ 11月10日(日)

最終審査；2019年12月12日(木)

■表彰式　　　2020年2月22日（土）　於JICA市ヶ谷ビル（予定）

**３　JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2019（高校生の部）　一次審査実施要領(参考)**

**※今年度の一次審査要領については、現在見直しを図っており、出来次第、全国事務局を通じてご連絡致します。**

**■審査員**

全国国際教育研究協議会が指定する各県事務局により推薦された者。第一次審査員の条件としては、作文を審査する上で相応しい能力を有した者であること。また、過去に同様のコンテストの審査経験があると望ましい。

**■今後のスケジュール（予定）**

|  |  |
| --- | --- |
| 9/20（金） | 一次審査作品の送付（オリジナル）および必要書類の送付※9月25日(水)着の日付指定で送付予定です。 |
| 9月中 | 事務経費の支払い（11,000円／県） |
| 10/16（水）必着 | 各審査員は審査結果を返送（一次審査選出リスト、全作品、その他必要書類） |
| 11月中 | 審査謝金支払 |

【お問い合わせ先】

公益社団法人　青年海外協力協会

JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2019全国運営事務局 担当：伊東／髙田

TEL：0265-98-0445　FAX：0265-98-0838　E-mail：jica.essay@joca.or.jp

【資料２】

**全国国際教育研究協議会　　会則・細則　改訂**

＊平成29年5月25日全国総会で大幅改正されたものです。

**１　全国国際教育研究協議会（略称　全国国際研）会則（五訂版）**

第１章　　総則【名称・目的・事業】

第１条　本会は、全国国際教育研究協議会と称し、事務局を会長の指定するところに置く。

第２条　本会は、学校における生徒の国際教育活動の向上充実を図り、国際社会に貢献できる人材育成と国際教育の振興に資することを目的とする。

第３条　本会は、その目的達成のため次の事業を行う。

　　（１）全国国際教育研究大会の開催

　　（２）国際教育に関する研修会・講習会等の開催

　　（３）国際教育に関する弁論大会・研究発表会等の開催

　　（４）国際教育に関する調査・研究及び報告書等の刊行

　　（５）その他本会の目的を達成するための事業

　　　　第２章　　組織【会員資格・各地区】

第４条　本会は、正会員及び賛助会員で組織する。

　　（１）正会員　　各都道府県（高等学校）国際教育研究協議会

　　（２）賛助会員　本会の趣旨に賛同する団体等

第５条　正会員の休会または賛助会員の加盟は理事会の承認を必要とする。

第６条　本会には次の各地区に協議会を設け本会の目的達成のための事業を推進する。

　　（１）北海道・東北地区（北海道・青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島）

　　（２）関東・甲信越静地区（茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・山梨・長野・新潟・静岡）

　　（３）東海・北陸地区（愛知・岐阜・三重・富山・石川・福井）

　　（４）近畿地区（滋賀・京都・大阪・奈良・和歌山・兵庫）

　　（５）中国地区（鳥取・島根・岡山・広島・山口）

（６）四国地区（徳島・香川・愛媛・高知）

　　（７）九州地区（福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄）

　　　　第３章　　役員【選出・職務・任期】

第７条　本会に次の役員を置く。

　　（１）会長　　　　　　　　１名

　　（２）副会長　　　　　　若干名

　　（３）理事　　　　　　　若干名

（４）監事　　　　　　　　２名

　　（５）顧問　　　　　　　若干名

第８条　本会の役員の選出及び職務は次のとおりとする。

　　（１）会長、副会長及び監事は理事会の推薦に基づき、総会において選出する。

　　（２）会長は本会を代表し会務を統括する。

　　（３）副会長は会長を補佐し、会長不在の時はその職務を代行する。

　　（４）理事は各都道府県事務局長等より会長が委嘱し、会務を執行する。

　　（５）監事は会計を監査する。

　　（６）顧問は会長が委嘱し、必要に応じて諮問に応ずる。

第９条　役員の任期は原則として１年とする。但し、再任を妨げない。

なお、欠員が生じたときは必要により補充し、その任期は前任者の残任期間とする。

　　　　第４章　　会議【構成要件・議決】

第10条　本会に次の会議を置き､会長が招集する。

　　（１）総会

　　（２）理事会

第11条　本会の会議は構成定員の3分の2以上の出席で成立する。

第12条　本会の会議の議決は出席者の過半数とし、可否同数の場合は会長が決する。

第13条　総会は年一回開催し、次の事項を議決する。

　　（１）予算・決算並びに事業に関すること

　　（２）役員に関すること

　　（３）会則等の変更及び改廃に関すること

　　（４）その他必要な事項

第14条　理事会は会長、副会長、理事等で構成し、次の事項を協議し会務を執行する。

　　（１）総会に付議すべき事項

　　（２）本会の運営等に関する細則の制定、または改廃

（３）その他会長が必要と認めた事項

　　　　第５章　　会計【会費・監査】

第15条　本会の経費は、会費、助成金、寄付金、賛助金その他をもって充てる。

第16条　本会の正会員は会費を当該年度7月末日までに納入する。

第17条　本会の会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第18条　本会の会計及び事業等は監事による監査を行い､結果は総会に報告する。

　　　　第６章　　附則【施行・細則】

第19条　本会則の施行に関する細則は､理事会において別に定める。

第20条　休会となっている都道府県においては、再加盟するまでの期間は個人登録を認め賛助会員とする。細則については別途定める。　　　　　　　　＊休会県のみ、個人登録の賛助会員を認める。

第21条　本会則は平成29年5月総会で議決し、議決後ただちに施行する。

　　　　　昭和45年10月13日施行

　　　　　昭和46年5月28日一部改正

　　　　　昭和49年5月30日一部改正

　　　　　昭和51年6月3日一部改正

　　　　　昭和53年5月25日一部改正

　　　　　昭和58年5月26日一部改正

　昭和60年度総会（昭和60年5月30日）において全国高等学校海外教育研究協議会を

　　　　　全国高等学校国際教育研究協議会と名称変更する。

　　　　　平成15年度総会（平成15年5月30日）において全国高等学校国際教育研究協議会を

　　　　　全国国際教育研究協議会と名称変更する。

　　　　　平成24年5月24日一部改正

　　　　　平成29年5月25日改正

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

**２　全国国際教育研究協議会会則及び全国理事会・事務局に関する細則**

第１条　会則第1条の事務局は、原則として東京都に置く。

第２条　会則第1条の事務局の構成については下記のとおりとする。

　　（１）全国事務局は、東京都国際研事務局及び会則第8条により選出された理事で構成する。

　　（２）全国事務局長は、東京都国際研事務局より選出し、事務局を統括する。

　　（３）全国副事務局長は、会則第3条及び第14条の業務（庶務・渉外・会計・広報・編集等）を分担する。

　　（４）会則第8条により選出された理事は全国事務局員として上記（３）の業務を分担するほか全国国際研大会の業務を補佐する。

第３条　会則第3条の事業のうち、（１）は最も重要な主催事業、（２）は主として教員（指導者）関連事業、

（３）は主として生徒関連事業、（４）はインフォメーション等の刊行事業、（５）は前記以外の事業。

第４条　会則第5条の正会員の休会については、当該会長名による事由を付した書面により届け出ること。その際、原則として事後の事務処理等を行う学校及び担当者を決めておくこと。

第５条　会則第４条、第５条及び第20条の団体以外の賛助会員については下記のとおりとする。

　　（１）休会期間中の都道府県の当該教職員は、全国事務局長に申請し賛助会員としての承認を得ること。

　　（２）上記（１）により承認された賛助会員（個人）は、会則第１６条に準じて会費1000円を納入すること。

（３）賛助会員資格は単年度とし、年度を越える場合は更新すること。

　　（４）賛助会員は、会則第３条の（３）を除く事業への参加資格を得ることができる。

（５）賛助会員の所属する学校の生徒は、会則第３条の（３）の出場資格は得られないが交流会等への参加は可能とする。

第６条　会則第６条の休会県における再加盟は複数校で構成し、正会員として申請すること。再加盟後当面1校あたり3000円の会費とする。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 項目 | 賛助会員休会県の個人加盟 | 再加盟（正会員）複数校で学校加盟し、県内組織を作る。 |
| 情報提供・インフォメーションの配布全国研究大会参加、生徒の交流会等への参加 | ○ | ○ |
| 全国研究大会　分科会発表 | ○ | ○ |
| 全国研究大会英語・日本語弁論大会出場 | × | ○ |
| 全国研究大会国際理解・国際協力に関する研究発表会出場 | × | ○ |
| 会費 | 個人会費1000円 | 当面の間１校あたり3000円 |

第７条　会則第７条及び第８条の役員については下記のとおりとする。

　　（１）会長は、原則として東京都国際研の会長とする。

　　（２）副会長は会則第6条により構成する各地区の会長及び会則第３条（１）の全国大会を開催する当該年度の会長とする。

　　（３）理事は会則第８条の（４）により選出された各都道府県事務局長等及び東京都国際研の役員とする。

（管理職）

１）次年度全国研究大会開催都道府県の会長

２）東京都国際研管理職より若干名

３）本会の理事として活動する各都道府県の管理職

　　　（教員）

1. 全国事務局長1名

２）副事務局長（渉外、全国会計、広報等）若干名

３）本会の理事として活動する各都道府県の教員（役割分担を別途定める）

　　（４）監事は会則第６条（２）の地区の会長または東京都国際研の副会長とし、総会において報告すること。

　　（５）顧問は理事会で推薦し会長が委嘱する。

第８条　会則第10条の総会及び理事会の議長は原則として会長または副会長があたる。

第９条　会則第10条及び第14条の理事会については下記のとおりとする。

　　（１）理事会は当面年2回（全国国際研前日及び2月）開催し、会則第11条、第12条及び第14条を適用する。

（２）上記の理事会開催における構成員の経費（交通費・宿泊費）は全国会計から支出することができる。

第10条　会則第15条及び第16条の会費等については下記のとおりとする。

　会費は現時点で30，000円。当該年度会費の納入は７月末。

第11条　本細則第５条の賛助会員申請様式及び第6条の再加盟申請様式は別途定める。

第10条～第14条

理事会を定期的に開催し、現行では年２回（全国大会前日と２月）とする。理事会は、いずれも文書で当該開催日の1ヶ月前にはメールで案内する。各構成員が欠席の場合はいずれも委任状が必要。いずれの会議も協議事項と連絡事項等を明確にしておく。

第19条　 細則（運用規定・申し合わせ事項等）について

（１）全国国際研究協議会会則及び全国理事会及び事務局に関する細則

（２）全国国際教育研究大会開催基準規程、開催要項及び運営要領に関する細則

（３）高校生英語弁論大会・高校生日本語弁論大会に関する細則

（４）高校生国際理解・国際協力に関する研究発表会に関する細則